



各種資料・データはD-cataをご覧ください

関連情報

製品情報

総合カタログ

P.239

ビルボードの品質・規格

項目	単位	社内測定値			
		ビルボード		JIS規格(A級インシュレーションボード)	
		9mm厚	12mm厚	9mm厚	12mm厚
密度*1	g/cm ³	0.27	0.27	0.35未満	
含水率	%	8	8	5~13	
曲げ強さ	N/mm ²	2.5	2.5	2.0以上	
吸水厚さ膨張率	%	6	5	10以下	
熱抵抗	m ² ·K/W	0.18	0.22	-	
熱伝導率	W/m·K	0.050	0.051	0.058以下	

*1 気乾状態で測定

遮音性能(透過損失)

(単位:dB)

品名	厚	125 Hz	250 Hz	500 Hz	1,000 Hz	2,000 Hz
ビルボード	9mm厚	12	12	17	22	29
ビルボード	12mm厚	13	14	20	24	30

測定:(一財)建材試験センター

吸音性能

品名	厚	125 Hz	250 Hz	500 Hz	1,000 Hz	2,000 Hz	4,000 Hz
ビルボード	9mm厚	0.10	0.13	0.48	0.33	0.25	0.28
ビルボード	12mm厚	0.18	0.20	0.51	0.31	0.32	0.37
合板	5mm厚	0.07	0.01	0.03	0.15	0.11	0.07
石膏ボード	9.5mm厚	0.05	0.01	0.05	0.11	0.07	0.04

測定:岡山県工業技術センター

※記載される物性値は保証値ではありません。

施工上の禁止事項

- 合板フロアの下地には使用できません。床コンボードをご使用ください。(床鳴りの原因となります)
- 耐圧縮性の面から、床コンボードに代えてビルボードを使用しないでください。併用もできません。

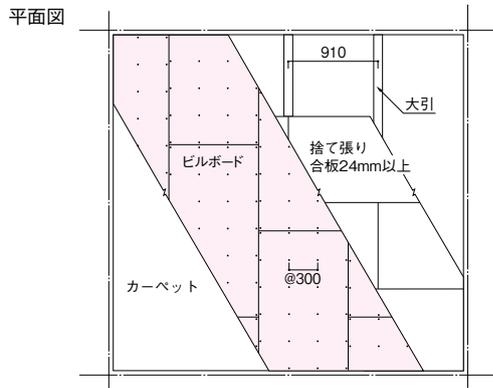
[ご注意]

- 床下地が十分に乾いていることをよく確認してください。万一濡れている場合は絶対に施工しないでください。
- 床下換気口は住宅金融支援機構の仕様書に基づいて設置してください。
- 床下が高湿になる恐れがあるときは、あらかじめ床下表面に防湿気密シート(防湿シート)を敷いてください。
- 捨て張り合板はレンガ張りとし、継ぎ目に段差がないようにしてください。
- 捨て張り合板、ビルボードの目地は重ならないようにしてください。床鳴りの原因となります。
- 床鳴り防止のために接着剤は直床ボンドウレタンLV等をおすすめします。
(くし引き状にボード両面にまんべんなく塗布してください。塗布量500g/m²(片面))
- RC床への接着はできません。
- Pタイルや長尺塩塩ビフロア、クッションフロア、防音フロア(裏面にクッション材が施されているもの)下地には使用できません。

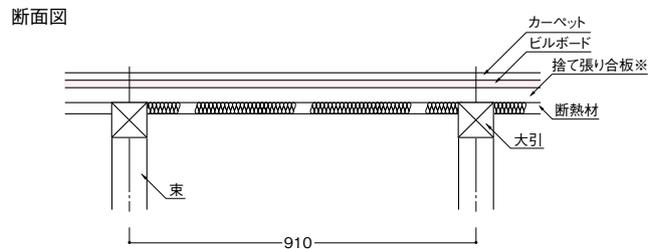
カーペット下地施工

- ※ビルボードの取付:シージングボード釘(SN40)又は普通釘(N38) @300
直床ボンドウレタンLV(ウレタン系接着剤)併用塗布量:500g/m²
- ※カーペットの施工は、カーペットメーカーの要領に準じて行ってください。

①合板捨て張り工法(根太なし)

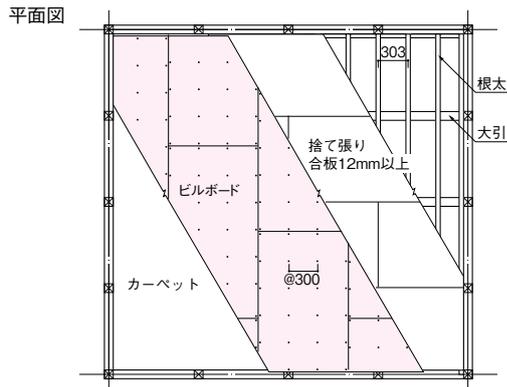


※床下地は大引(床梁)を910mm間隔に組んでください。

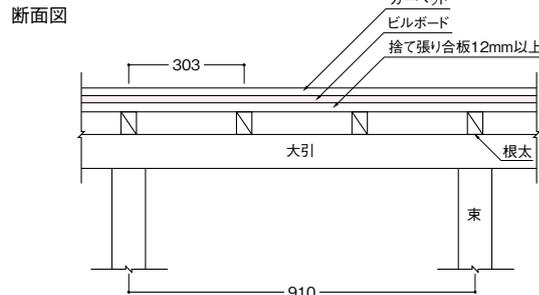


※捨て張り合板は厚さ24mm以上の構造用合板をご使用ください。
メーターモジュール(大引(床梁)1,000mm間隔)の場合は、厚さ28mm以上の構造用合板をご使用ください。

②合板捨て張り工法(根太あり)



※床下地は大引(床梁)を910mm、根太を303mm間隔に組んでください。



※捨て張り合板は厚さ12mm以上の構造用合板をご使用ください。



各種資料・データはD-cataをご覧ください

関連情報

製品情報

総合カタログ

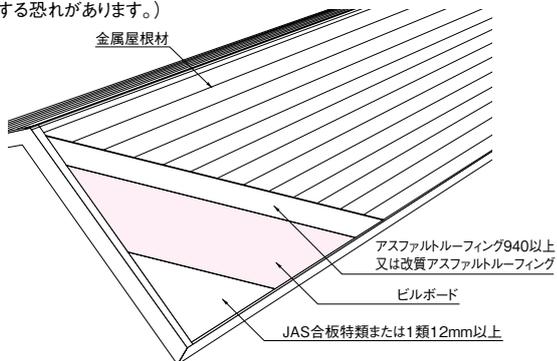
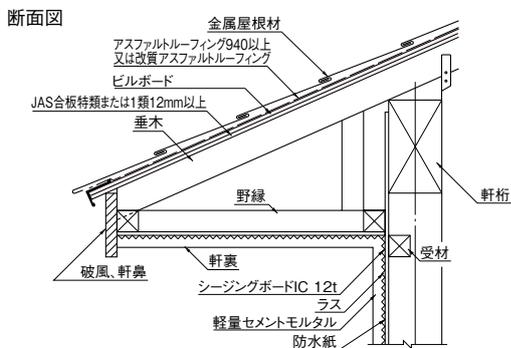
P.239

納まり図

屋根下地施工

施工上の禁止事項

- 雨・雪・露などで屋根面が濡れている場合や、強風時には施工しないでください。
- 不燃スレート瓦下地としては使用できません。(施工時の加重等で瓦が破損する恐れがあります。)



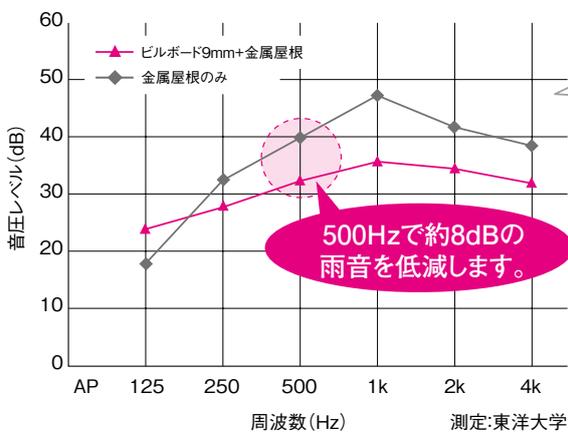
※ ビルボードの取付：シーリングボード釘 (SN40) 又は、普通釘 (N38) @300

【ご注意】

- 屋根下地に使用する際には必ず野地板 (JAS合板特類または1類12mm以上) を捨て張りしてください。
- 野地板目地とビルボードの目地はずらして施工してください。
- 屋根下地施工にはステープル施工はしないでください。

雨音をおさえる

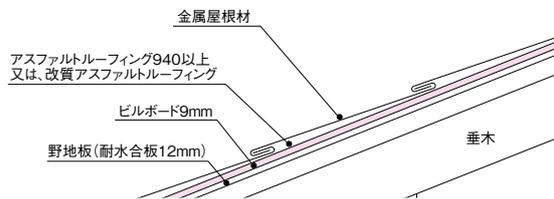
ビルボードの雨滴滴下音圧レベル差試験



- 10dBの差で人間の耳では半分の音の大きさになります。

※性能については、実験室での測定結果であり、現場での性能を保証するものではありません。

試験仕様



試験条件

- 雨滴 (2.9mmφ、1.272×10⁻²g) を1.5mの高さより試験体中央に落下させる。
- 試験体 (550×470mm) 屋根構成裏側で音圧レベル測定。